

パキスタンの南部に位置するシンド州は、代表的な都市であるカラチが大きな商業都市として知られている。そのカラチから北へ160^{キロ}進んだところにシンド州第2の都市ハイダラバードがあり、そこからさらに15^{キロ}の場所に「教育の都市」と呼ばれるジャムシヨロがある。

ジャムシヨロには大学が3校あり、今回のプロジェクトの対象であるリアカット大学付属病院もここに位置している。本プロジェクトは、リアカット大学付属病院の母子保健病院を拡充することを目的としており、母子保健センター棟（延べ床面積6000平方^{メートル}、3階建て）の建設と医療機器を提供する。

■気候に配慮した建築設計
シンド州は高温な上、乾燥した気候で、特に内陸のジャムシ

海外建設協会

プロジェクト便り

◆パキスタン

シンド州母子保健医療施設拡充計画

飛島建設

母と子の命救う施設

ヨロは夏場の外気温が40度を超える日も珍しくない。これに対応するため、断熱性と通風性に優れた建築設計を採用した。屋上には換気スペースを兼ねた断熱用の鉄骨屋根空間を設け、地下ピットの冷気を取り込み、熱気は換気用トップライトから排出する計画とした。

外観デザインは現地の建築様式や色彩に調和するものを採用し、地域住民に親しみやすい施設づくりを意識して設計された。また、外壁や待合スペースなどは積み木をイメージしたデザインとし、子どもが喜ぶ空間となっている。

ハイダラバードやジャムシヨロ周辺地域では、インダス川の水をくみ上げ、浄水場を経由して市水として供給されている。しかし、浄水施設が不完全なため、浄水には川の土が含まれ、白く濁ったものとなっていた。そのため、本プロジェクトでは、日量50^{トン}を浄化できる砂ろ過システムの浄水槽を設置した。これにより、濁りのない水が供給されることになった。

■厳しい条件下でも要請に応える
このプロジェクトは、2022

病院棟南西外観



地域住民から親しまれるデザインに

病棟内部の手術室



プロジェクトは日本とパキスタンの技術協力の象徴的な事例とされ、以降の多くの政府開発援助（ODA）プロジェクトのモデルとなった。

今回の病院プロジェクトは既存病院の増築であり、既存病院には多くの入院患者や外来患者が診察に訪れていた。ここ数年の世界的な異常気象による大雨が着工前年にジャムシヨロ周辺でも発生。着工時に周辺の医療機関が閉鎖されたことで患者が集中し、施設のキャパシティを超えた状況となっていた。

パキスタン側は、本プロジェクトが地域の人々にとって非常に重要な施設であり、医療アクセスの改善に大きく貢献すると、日本からの支援とこれまでの継続した支援へ謝辞を述べた。そして、今後の医療の質を向上させること、特に子どもたちの健康を守ることを重要課題として、医療分野でのさらなる発展を目指していくことを表明した。

1年7月から25年6月までの48カ月間で実施され、そのうち建築工事は23年7月から25年6月までの24カ月間、飛島建設が請負、施工した。

飛島建設は、1975年に香港をはじめ東南アジア各地に駐在員事務所を設置し、本格的に海外活動を開始した。その後、77年にパキスタンへ進出し、イスラマバードにおいて中央電気通信研究所を建設した。このプ

く貢献
25年7月に開院式が行われ、

（建築本部建築FSC施工G・菊池孝守）

